

## 2014 スキルアップセミナー かしこく使う！バリアフリー改修助成

### 実践 住宅改修助成制度の使い方 I,II

今年も昨年に引き続き、福祉住環境関連のスキルアップセミナー“かしこく使う！バリアフリー改修助成”を行いました。

今回は、福祉住環境整備に利用できる住宅改修助成制度の紹介と使い方をテーマに、2つの制度を2回に分けて学んでいただきました。

2つの制度とは、“介護保険住宅改修費の支給制度”と“神戸市住宅改修助成制度”であり、前者は、介護保険から要介護者一人に対して支給され、後者は、自治体（神戸市）から要介護者及び身体障害者のいる世帯に対しての助成となります。

まず第1回目は“介護保険住宅改修費の支給制度”について。

箕面市健康福祉部高齢福祉課主査であり理学療法士の遠近高明氏に、講義をしていただきました。

箕面市では、市民病院に併設されている総合健康福祉センターにて、高齢者も障害者も、福祉に関連する相談を1つの窓口で対応する垣的な体制をとっており、遠近氏は、そこで住宅改修やりハビリ、福祉用具の相談を一手に引き受けていることから、その豊富な経験による、実践に基づいた話をさせていただきました。

内容は、

- ・ 高齢者にとって危険な場所が住宅であること
- ・ その住宅内で危険な箇所はどこなのか
- ・ 危険な箇所の対処方法、自立支援の視点
- ・ 住宅改修の必要性とその効果

などを、実例を交えて解説いただき、参加者に大変分かりやすく、理解が深まりました。



そして、講義のあとは、制度の使い方を体験するワークショップを行いました。

参加者を4グループに分け、各グループにセラピスト（理学療法士、作業療法士）に1名ずつ加わってもらい、グループで改修プランを作成しました。（参加者は、建築士、福祉関連職、一般市民と様々）

“介護保険住宅改修費の支給制度”は、支給限度額が20万円と工事費としては多くないため、福祉用具との併用を考慮する必要があり、また、効率よい改修方法、改修箇所の選定が求められます。

グループ毎に違う症状の対象者のために、80分の間、ケアマネジャー、セラピスト、建築士それぞれの専門知識を出し合っており、建築士は工事費の見積、ケアマネジャーは理由書の作成まで、実際に必要な書類作成を疑似体験いただきました。

限られた時間内での作業でありましたが、各グループ共活発に話し合っており、それぞれの立場の専門性や考え方を学ぶ良い機会となったのではないのでしょうか。



第2回目は“神戸市住宅改修助成制度”について。

こちらは、助成対象額が最高 100 万円と高額になることから、ワークショップの時間を多くとることにしました。

まず、神戸市で住宅改修関連の助成制度は、今年新設された“神戸市バリアフリー住宅改修補助事業”を含め、3つであることを紹介し、初めに補助事業について竹下氏（すまいるネット）より簡単な説明をしていただきました。

その後、三島より“神戸市住宅改修助成制度”について

- ・ 対象者、対象工事
- ・ 手続き、申請の流れ
- ・ 助成額（箇所後と限度額、助成金額算出方法）

等、概要を説明しました。

助成額に箇所毎限度額があることや訪問調査時の判断に委ねられる部分があるため、複雑かつ不明瞭な部分は解説しきれなかったのですが、概ね理解いただけただけでした。

ワークショップは、1回目と同じく4グループとし、セラピスト3名（1名は2つのグループを担当）に加わっていただきました。

家屋は、神戸に多い、外部階段があり、屋内も各部屋間に段差があるタイプ。

1回目と違い、対象者の身体状況が重度（要介護3～5、障害1級）となっており、自立歩行困難、または不可能（車椅子使用）であり、屋内移動及び外出を安全に行うためには住宅改修が必要という設定でした。



前面道路とFLと、約1000mmほどの段差を出入りするための方法をどうするか、が最大のポイントであり、トイレのスペースや浴室の段差などの要改善点を含め、なるべく金額を抑えられるように改修プランを作成。大まかな見積金額と助成金額を算出するところまでしていただきました。

4グループそれぞれ、重点（自立支援か介助量の軽減か）をどこにおくかにより、違ったプランとなっており、障害福祉と介護保険との施策の違い、年齢や家族の状況の違いが反映された改修プランが出来ました。



アンケートでは、役立度がセミナー、ワークショップ共に、役に立った及びやや役に立ったとなり、セミナーの理解度は、ほとんどがわかりやすかったようでした。

ただし、ワークショップの難易度の問いには、難しかったという答えがほとんどであり、福祉住環境整備の複雑さを顕著に表す結果となりました。

今回、参加いただいた方には、制度の内容だけでなく、身体状況や家屋の状況、介助者の状況などによるプランの仕方、制度の使い分け、工事のタイミング、必要な準備期間などを学んでいただきました。

今後の住宅や公共の建物の設計に、今回会で得た知識を活かしていただければと思います。

日 時： 第1回 11月1日（土）、第2回 11月29日（土） 13：15：～16：30

場 所： 兵庫県民会館 1001号

受講料： 1000円

参加者： 第1回 15名、第2回 20名 計 35名

講師： 第1回 遠近 高明氏（理学療法士、箕面市健康福祉部高齢福祉課主査）

ワークショップ指導： 増田利佳氏、丸尾真衣子氏、澤晃平氏

第2回 ワークショップ指導： 中谷陽子氏、久米絢子氏、満田有里佳氏

記 三島